

- 家読(うちどく)推進運動について
- 子供たち一人一人の学力向上に向けて
- 山梨近代人物館を整備しています
- スーパーサイエンスハイスクール事業の概要
- 博学連携の推進－学校教育に考古博物館をご利用ください－
- 学校教育を支援するための確かな情報発信
- 学校紹介／甲府市立千代田小学校・県立中央高等学校
- 県立美術館コレクション企画展「山梨の魅力～風景と人々の営み」
- 県立文学館「新収蔵品展 ペンをもつ、筆をとる」
- ミュージアム甲斐・ネットワーク／山梨市根津記念館
- 山梨の文化財／県指定有形文化財 銚子塚古墳出土木製祭祀具
- 新教育委員長・新教育委員就任挨拶

Click!

※指定ページにジャンプします



作品タイトル「組み立て体操 サボテン」

笛吹市立八代小学校

第6学年 河野 海

指導者：宮澤 宏明 教諭

山梨県教育委員会

家読(うちどく)推進運動について

社会教育課



「しなやかな心の育成プロジェクト」の一環として、社会教育課では、「家読(うちどく)推進運動」に取り組んでいます。

「家読(うちどく)」とは、1冊の本(絵本)をとおして、家族のコミュニケーションをより豊かなものにしようという取組です。

3年目を迎え、取組もバージョンアップし、新たな催しにもチャレンジしましたので、その様子もあわせて、今年度の家読推進運動の様子をお伝えします。



「家読100選」パンフレットの配布

昨年度、子どもたちといっしょに読みたい本、読んでもらいたい本などを紹介した「家読100選」パンフレットを、県内の幼稚園児・保育園児から高校生まで、約3万部配布させていただきました。

今年度は、県内の入学・進級した新小学1年生、3年生、5年生、中学1年生全員にリニューアル版を配布させていただきました。

「家読(うちどく)」にふさわしい本として紹介している選定図書の変更はありませんが、今回のパンフレットの特徴としては、前回のパンフレット作成時に県民の方々から御推薦いただいた本の中から、約5冊ほど選定し、県民作成の紹介文も併せて紹介した点が挙げられます。

今年度のパンフレットは、公立図書館にも配布させていただいてありますので、ご興味のある方は、ぜひお近くの公立図書館へお立ち寄りください。

また、県のHPにおいても、全種類のパ

ンフレットがダウンロードできますので、ぜひ御活用ください。

☆紹介文の一例をご紹介します。

できないと思っていることも、がんばればできるようになる！この本を通して、学びました。

『れいぞうこのなつやすみ』
村上しいこ/さく 長谷川義史/絵
PHP研究所



「家読フォーラム」の開催

山梨県総合教育センターで開催されたフォーラムには、約300名の参加があり、ノンフィクション作家の柳田邦男先生の講演、自治体として先進的に「家読」に取り組んでいる埼玉県三郷市教育委員会の方々の事例発表を行いました。

「大人の気づき 子どもの成長 ～絵本は子育ての特効薬～」と題した講演を行った柳田先生は、「人間が生きる上で大事なことは、みんな絵本が教えてくれる」と語り、年齢を問わず、絵本を読むことの大切さと絵本を通して親子がつながり合うこと、体験を共有することの大切さを伝えてくださいました。



三郷市教育委員会の事例発表では、「日本一の読書のまち」宣言を行った経緯や具体的な取組内容などの紹介、そして、読み聞かせ実演として三郷の民話「こくぞうさまとうなぎ」の朗読がありました。



参加された方々は、時折メモを取りながら、真剣に耳を傾けていました。

「うちどくポップ展」の開催

「家読100選」パンフレットで紹介している選定図書の中から、家族で一緒に読んでみて一番おすすめしたい作品について紹介する「ポップ」を、県内の幼稚園児・

保育園児から高校生までに募集を呼びかけました。

約100点の作品は、どれも家族で楽しそうに作品づくりをしたことが伝わる素敵なものでした。それら応募作品の中から、入賞作品として18作品を選考し、また、応募作品すべての展示を山梨県立図書館のイベントスペースにて行いました。



*入賞作品の一部を紹介します。

来年度に向けて

乳幼児や中高生に向けた取組の工夫や、県内で取り組まれている活動の調査など、取組の強化を図り、来年度も「うちどくポップ展」などのイベントをとあして、読書を通じたコミュニケーションが深まるよう活動を推進していきます。

子供たち一人一人の学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査結果の有効活用を図る～

義務教育課

1 全国学力・学習状況調査の分析

| | 小学校調査 | | | | 中学校調査 | | | |
|------------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
| | 国語 | | 算数 | | 国語 | | 数学 | |
| | A (知識) | B (活用) |
| 平均正答数 (本県) | 10.5/15 | 5.5/10 | 13.1/17 | 7.5/13 | 25.6/32 | 4.7/9 | 24.0/36 | 9.0/15 |
| 平均正答数 (全国) | 10.9/15 | 5.5/10 | 13.3/17 | 7.6/13 | 25.4/32 | 4.6/9 | 24.3/36 | 9.0/15 |
| 平均正答率 (本県) | 70.1 | 55.0 | 77.0 | 57.6 | 80.0 | 52.0 | 66.6 | 59.7 |
| 平均正答率 (全国) | 72.9 | 55.5 | 78.1 | 58.2 | 79.4 | 51.0 | 67.4 | 59.8 |
| 全国平均正答率との差 | -2.8 | -0.5 | -1.1 | -0.6 | 0.6 | 1.0 | -0.8 | -0.1 |

4月に実施された「全国学力・学習状況調査」結果が8月に公表されました。全体の概要として、本県の児童生徒の教科に関する調査の平均正答率は、全国の平均正答率の±5%の範囲内にあり、ほぼ全国と同等という結果でした。

校種別の状況を見てみると、小学校では、国語A・B、算数A・Bともに全国の平均正答率に届かなかったものの、国語Aを除き、その差はかなり縮まっています。

また、中学校では、国語A・Bは全国の平均正答率を上回り、数学Bはほぼ同程度、数学Aは全国の平均正答率に届かなかったものの、その差はかなり縮まっています。

県教育委員会では、得点だけでなく、誤答の分類や無答の割合を分析することで、「どんなことが原因で間違ってしまったのか」「途中であきらめての無答なのか、時間が足りないための無答なのか」等を明らかにするとともに、その改善に向けての指導や授業改善の在り方についてまとめ、各学校における具体的な課題改善を促すための工夫や努力を進めています。

また、質問紙調査からは、全国的な傾向として児童・生徒の規範意識や自己肯定感の低下が課題となる中、本県においては、規範意識、自己肯定感、道徳性等いずれの項目においても全国値を大きく上回っていることが明らかになりました。この他にも、「学校に行くのが楽しい」「先生は良いところを認めてくれている」と感じていたり、あいさつをしたり、地域行事へ積極的に参加したりするなど、本県児童・生徒が健やかに成長している様子が伺えます。

一方、質問紙調査から見られる課題としては、携帯電話やスマートフォンの所持率が高く、かつ使う時間も長いこと（中学生）、テレビやDVDを見たり聞いたりする時間が長いこと（小・中学生）などが挙げられています。こうした時間を家庭での学習時間に置き換えていくことによって、ここ数年指摘されている「学校の授業時間以外の学習時間が短い」という課題の改善を図っていきたいと考えています。

2 全県的に取り組むこと

県教育委員会では、今回の結果を受け、10月9日に、公立小・中学校の全校長を対象とした臨時研修会を開催しました。学力向上に向けては、学校としての組織的な対応が重要であり、学校長のマ



「学力向上フォーラム2014」ポスターセッションの様子

ネジメントによる取組について、具体的なデータや数値を基に説明しました。

また、午後からは各学校の研究主任を対象に、学力向上に向けた「学力向上フォーラム 2014」を開催し、県教育委員会が作成した調査結果に基づく「授業改善のポイント」について、担当する指導主事から説明を行いました。また、ポスターセッションでは、県内8地区に配置されている16の推進校が、それぞれの学校の「授業改善のポイント」を示しながら、その改善に向けての取組や中間まとめについて発表し、参加者が質問したり、熱心にメモを取ったりする姿が見られました。各推進校で行われている研究・実践は、決して特別なものではなく、学力の向上や課題の改善に向けてすべての学校が取り組むべき内容であり、今後、一層の周知・浸透を図っていききたいと考えています。パネルディスカッションなど、新たな試みも取り入れることで、学力調査の結果を各学校において有効に活用できる方策や手立てについて、ともに考える機会とすることができました。

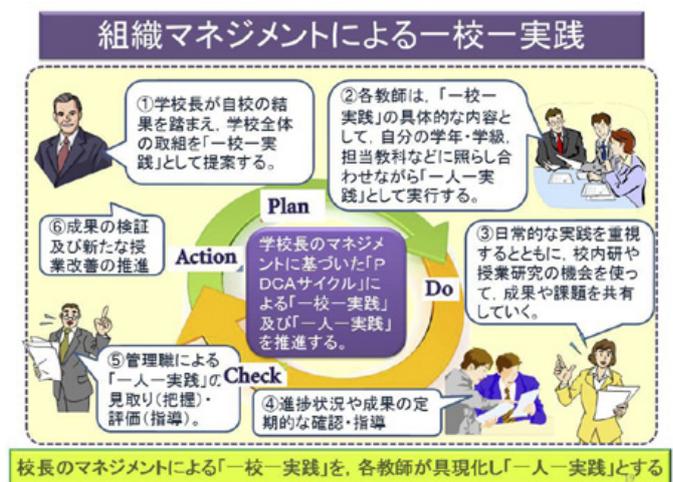
さらに、県下5地区で、家庭学習について保護者や地域とともに考える機会として、ここ数年「学力向上の集い」を開催しています。児童・生徒の家庭における学習習慣の確立を具体的に図るため、有識者や学校関係者をパネラーとする座談会形式の集会を行っているところです。



学力向上の集い
(富士・東部地区 10/22)

3 学校長のマネジメントによる学校の授業改善

学力の向上に向けては、授業を通して児童生徒と直接関わる学級担任や教科担任の授業内容や評価方法が重要であることは言うまでもありませんが、確かな学力を子供たち一人一人がしっかりと身に付けていくためには、学校としての組織的な取組が不可欠です。各学校の校長先生には、こうした組織的な取組を企画・説明・推進していくためのリーダーシップとマネジメント能力が求められています。県教育委員会では、各学校の課題を学校長がしっかり認識し、これを改善していくための取組を「一校一実践」とし、さらに、これを受けての学年や教科等に応じた具体的な手立てや実践を「一人一実践」と位置付け、各学校の授業改善の成果を「PDCAサイクル」に基づいて取り組むことを提唱しています。



4 一人一人の教員による授業改善

「一人一実践」の実行においては、日常的な実践を大切に、子供の変容を捉え、必要な修正を加えながら、日々自己の授業改善を行うとともに、校内研究会等を通して、課題や成果を共有化していくように工夫します。また、管理職による授業参観等を通して、進捗状況や成果の確認と更なる改善の指導を受けるようにします。本県においては、「学校長が授業を観て回る機会が少ない」ということも課題となっており、「一校一実践」に基づいた「一人一実践」の取組を充実させることによって、これらの課題も改善できると考えています。

山梨近代人物館を整備しています

～山梨の礎を築いた先人、山梨から日本の礎を築いた先人を紹介します～

学術文化財課

1 県庁舎別館

現在、県庁舎別館は外観をシートで覆われ、中では耐震化工事が進められています。

別館は、昭和5年に完成しました。意匠はルネサンス様式を平明にした清新なもので、平面の形や軒瓦の紋様を山の字にかたどるなど、郷土性が豊かで、重厚な外観と静的な内部空間をもった貴重な昭和初期の建築物です。平成21年12月24日、県議会議事堂とともに県の有形文化財に指定されました。



昭和5年 創建時の県庁舎別館

このように、別館は、貴重な文化遺産であるとともに、山梨県の発展を支えてきた幾多の先人達の思いが詰まった建物でもあります。

先人達が山梨県を舞台にどのような活動をしたのか、時代を超える記憶が刻まれています。こうした別館の特徴を活かし、県内外の多くの人に山梨県の魅力を知ってもらうために、耐震化工事に合わせて別館内の一部に「山梨近代人物館」を整備することとしました。

2 山梨近代人物館

(1) 山梨近代人物館の施設概要

山梨近代人物館は、県庁舎別館の2階の一部に設置し、3階の旧正庁も紹介していきます。

2階部分 紹介



①導入展示室 導入映像とともに50人の人物が出迎えます。

②人物紹介室 人物紹介ユニットにより9人ずつ詳細に人物を紹介します。中央線笛子トンネルを題材とした映像や、クイズを楽しみながら先人の人生が学べる子ども向け展示もあります。

③旧知事室 内装、調度品を創建時に復原しました。往時の雰囲気を感じていただけます。

④県政歴史展示室 中央に設置されたモニターにより、県政の歴史や県庁舎の変遷、昭和30年代の映像をご覧いただけます。

(2) 山梨近代人物館で紹介する人物

山梨近代人物館では、概ね明治時代から戦前までの間、山梨県の発展に貢献した人物や、山梨県出身の国内外で活躍した人物を紹介します。農林業、政治・経済、国際交流、教育、芸術、学術など幅広い分野から50人の人物を選定しました。

山梨近代人物館は、平成27年4月開館予定です。先人たちの生き様には、これから生きるためのヒントがあるはずです。教職員の皆様には、学校行事等で御活用くださいますようお願いいたします。

スーパーサイエンスハイスクール事業の概要

県立日川高等学校

1 日川高等学校のSSH

本校は、平成24年度に文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されました。

“論理的思考力、創造性や独創性等の高揚を目指した効果的な教育プログラムの研究”

“優れた社会性、国際性を備えた次世代を担う科学者や技術者の育成を目指した効果的な教育プログラムの研究”

“峡東地域の「知」の拠点校としての在り方と地域とのネットワークの構築に関する研究”

これら3つの研究開発課題に、各年次にSSHクラスを1クラス設置し、将来の国際的な科学技術系人材の育成を目指し、様々なSSH事業に取り組んでいます。

2 SSH学校設定科目

(1) SSを付した理数系科目

これまでの本校の理数教育のノウハウを活かし、従来の数学、理科と比較し、学習指導要領に定める単元の配列を一部変更し、より深く学ぶことにより、大学進学や大学での高度な研究の基礎となる学力を育成します。

| 1年次 | 2年次 | 3年次 |
|------------------|--------|---------|
| SS数学I | SS数学II | SS数学III |
| SS理科α (化学・地学) | SS化学I | SS化学II |
| SS理科β (物理・生物) | SS物理I | SS物理II |
| | SS生物I | SS生物II |

(2) SS基礎、SS探究I・II

様々な科学講座や課題研究を通して、科学に対する生徒の興味・関心を高め、生徒の国際的科学者への足がかりを築き、大学や研究機関と連携した先進的な理科教育を展開しています。

| SS基礎 (1年次生) | SS探究I (2年次生) | SS探究II (3年次生) |
|--|--------------------------------------|------------------|
| SS英語 課題研究I 山梨を知る講演会 情報数学演習 理科基礎実験 プレゼン講演会 企業見学 | SS英語 課題研究I 科学技術講演会 科学オリンピック | SS英語 課題研究II |

SS基礎「山梨を知る講演会」は、本県の自然環境、産業、科学技術に関する講演会であり、SS探究I「科学技術講演会」は、理工学、医学等の各分野の先端科学技術に関する講演会です。

3 課題研究の推進

(1) 課題研究I

他の運動部・文化系クラブと兼部し、全年次のSSH生徒約120名が、情報技術研究部、物理地学部、生物化学部のいずれかの理数系クラブに所属しています。1・2年次生80名は、放課後、休業日等に活動を行い、グループ研究の課題研究Iに取り組んでいます。数学、物理、化学、生物、地学の5分野12グループに分かれ、研究テーマを設定し、そのテーマに対して、実験・観察・調査に取り組んでいます。昨年度の山梨県高等学校芸術文化祭自然科学部門では、「断層活動からみた甲府盆地東部の形成史」が部門別の最高賞である芸術文化祭賞を、「光と構造色」が教育長奨励賞を受賞しました。「断層活動」の研究は、本年度、山梨県代表として全国高等学校総合文化祭で発表、「光と構造色」の研究は、SSH生徒研究発表会でポスター発表を行いました。地学課題研究班は、2研究が日本地質学会仙台大会小中高校生徒「地学研究」発表会でポスター発表を行い、奨励賞を受賞しました。



生徒の自然科学発表会(課題研究)

(2) 課題研究II

個人研究による課題研究であり、1・2年次に実施したSS基礎・探究Iでの大学や研究所の講師による講義、実習・実験、また、数学や理科で学んだことの成果から、自ら課題を見つけてテーマを設定し、課題研究を進めます。

4 国際性の育成

(1) フェロー講演会

日本学術振興会（JSPS）の事業を活用した若手外国人研究者による「フェロー講演会」により、生きた科学英語を学びます。1年次生対象に2回、2年次生対象に4回、3年次生対象に3回を実施しています。うち1回は、1・2年次合同の講演会を実施しています。

(2) 英国姉妹提携校KLB Schoolとの交流

課題研究の内容紹介、山梨の自然環境、科学の力のできる新製品、新企画、新技術の提案などをテーマに、KLB Schoolの教師・生徒に対し、パワーポイントを用いて英語によるプレゼンテーションを実施しています。

5 校外研修

(1) サイエンスツアー

トップクラスの研究者や技術者との交流、先端技術との出会いを可能にし、科学技術に対する興味・関心を高め、知的好奇心や探究心を育成します。年間5回のサイエンスツアーを実施しています。



種子島宇宙センター

《サイエンスツアー》

- | | |
|------------------------------|--------|
| I 筑波研究学園都市研修 | (1年次生) |
| II スーパーカミオカンデ・ 分子科学研究所等研修 | (2年次生) |
| III 日本科学未来館・ 海洋研究開発機構研修 | (1年次生) |
| IV 国立天文台・理化学研究所研修 | (2年次生) |
| V 種子島・屋久島・桜島研修 | (2年次生) |

《サイエンスラボ》

- | | |
|----------------------|--------|
| I 山梨大学訪問研修 | (1年次生) |
| II 東京工業大学・東京海洋大学訪問研修 | (2年次生) |

(2) サイエンスラボ

大学での研究活動の体験を通して、大学や研究者との距離を縮め、研究者への意識が一層向上することを目指します。

6 地域との連携

(1) サイエンスステップ・サイエンスジャンプ

地域の小中学生に「自然科学教室・体験授業」を行い、実験を通して科学の楽しさや面白さを体感させ、科学への興味関心を高めています。これまで2回のサイエンスステップ（小学生対象）を開催し、延べ350人の児童・保護者が参加しました。サイエンスジャンプ（中学生対象）は4回開催し、延べ500人の中学生が参加し、SS数学・SS理科等のSSH科目を受講しました。

(2) サイエンスアカデミー

本校保護者・同窓生や地域の高校生・一般住民を対象とした科学講演会「サイエンスアカデミー」をこれまで4回実施し、延べ250人が受講しました。

- 「科学の恵み」 脳科学者 茂木健一郎氏
 「地球外生命が存在すると考えるわけ」
 生物学者 長沼毅氏
 「想像こそ創造への一歩」
 工学博士 月尾嘉男氏
 「オリンピックに勝つ物理学」
 工学博士 望月修氏

(3) サイエンスボランティア

甲州市の「宇宙の学校」に参加する小学生の実験アシスタントとして、今年度からボランティア活動にも参加しています。

7 終わりに

様々な取組により学校全体では徐々に理系希望者が増加する傾向にあり、底辺の拡大が図られました。また、日本地質学会仙台大会での奨励賞の受賞やサイエンスキャンプ等に選考される生徒も現れ、上位を伸ばす成果も実を結びつつあります。今後も事業の評価を行い、よりよい事業の推進に努力していきたいと考えています。

博学連携の推進－学校教育に考古博物館をご利用ください－

県立考古博物館

考古博物館では、山梨県内の歴史の歩みや私たちが住む地域の歴史、史跡、考古学を子どもたちにより身近に感じてもらえるように、学校教育現場との連携を図るプログラムを多数用意しています。歩く、見る、作るなど実際に体を動かし、教室では出来ない体験をすることによって歴史に興味、関心を持っていただきたいと考えています。

考古博物館を囲む「甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園」内には弥生時代のお墓である方形周溝墓群が見つかった上の平遺跡のほか、数多くの縄文・弥生・古墳時代の遺跡が確認されています。さらに国指定史跡で東日本最大級の銚子塚古墳や丸山塚古墳、大丸山古墳など、山梨県を代表する古墳がいくつもあります。そんな古代の遺跡が満載の場所で、豊かな自然を満喫しながら校外学習、遠足など教育の場として考古博物館をぜひご活用ください。

1 考古博物館と公園内の古墳を案内します

校外学習、社会科見学などで当館をご利用の際には、教育課程に合わせて古墳や館内の案内を行っています。

実際に古墳に登り、その大きさを体感したり、本物の土器などを見たり触れたりする貴重な経験の場とすることができます。時間が許す限り児童生徒の皆さんひとりひとりの質問にもお答えしています。

また、古代の生活を体験するメニューも用意されていて「火起こし体験」、古代の編み物「編布（アンギン）作り」、「縄文土鈴作り」、古代のアクセサリー「勾玉作り」（別途材料費必要）が行えます。

本年はすでに県内65校、県外57校の小・中・高校の利用がありました。博物館の見学にあわせて、古代の暮らしの体験学習もいかがでしょうか。



火起こし体験の様子



貫頭衣と巫女衣装

2 古代衣装のレプリカを貸し出しています

弥生・古墳・飛鳥時代の衣装を再現した古代衣装レプリカの貸出を行っています。社会科の時間や総合学習の時間に自分で着付けをし、試着して古代の生活を体感することができます。

古代の衣装は身分や性別、社会的立場によって違いははっきりと現れます。実際に身につけることで当時の暮らしを想像し、子どもたちが歴史に興味を持つことができると考えています。

3 「わたしたちの研究室」の作品を募集しています

総合学習の時間やクラス、学年での社会科の研究、体験などで学んだ成果を発表する機会としてコンクール「わたしたちの研究室」を実施しています。

山梨県内の小・中学生を対象に、個人から団体まで歴史、考古学に関する研究を9月から11月末まで募集しています。2月にはすべての応募作品を館内で展示し、優秀者を表彰します。最優秀賞、優秀賞を受賞した方の作品は考古博物館で1年間展示をします。



昨年度の最優秀賞の展示

昨年度は参加者総数423人、研究成果・作品総数274点もの力作が集まりました。歴史が好き、もっと歴史や考古学について学びたいという意欲のある未来の研究者たちにぜひ応募してほしいと思っています。

4 職場体験、インターンシップを受け入れています



中学生の職場体験の様子

考古博物館では職場体験、インターンシップの受け入れを行っています。出土品の整理作業や博物館イベントの手伝い、収蔵品の展示作業など学芸員の仕事を実践を通して学びます。毎年多くの生徒が博物館という環境の中での職業体験に取り組んでいます。

本年は17校39名の生徒の受け入れを行いました。志望の動機はそれぞれですが、普段できない体験をすることで働くことの大変さと充実感などを学び、

成長するための一助を担います。実習時期・期間・時間などは考古博物館の行事日程を鑑みながら、可能な限りご要望にお応えしています。

5 先生方の研修でご利用ください

考古博物館附属施設の風土記の丘研修センターでは、講堂、研修室の使用も可能です。夏季休暇などお時間のあるときに見学、研修にお越しください。

利用目的によって団体、個人どちらでも可能で、2か月前から利用受付をしています。予め空き状況等をご確認のうえ、社会科の教員研修会、勉強会等で積極的にご利用ください。

問い合わせ先

県立考古博物館 学芸課

TEL 055-266-3881

FAX 055-266-3882

風土記の丘研修センター

TEL 055-266-5286

FAX 055-266-5287

関連 HP : <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

学校教育を支援するための確かな情報発信

～ 研究の推進、教育資料の収集、校内研究の支援 ～

総合教育センター 研究開発部

研究開発部では、総合教育センターの基本方針を受け、研究の推進、教育資料の収集、校内研究の支援等を担当しています。

【研究の推進】

○研修主事による研究

全体研究テーマ「学校教育を支援する実践的な研究」の下、以下の内容で研究を推進しています。すべての研修主事がグループに所属するとともに、部長及びスタッフ主任もグループアドバイザーとして研究に携わっています。

| 研究領域 | 研究テーマ |
|------------|-------------------------------|
| 理数教育 | 理数教育の充実を目指して |
| 言語活動 | 言語活動の充実を図る学習指導の在り方 |
| 教育相談 | いじめ・暴力予防とプログラム開発のための研究 |
| 特別支援教育 | 高等学校における特別支援教育に関する研究 |
| 情報教育 | ICTの効果的な活用に関する研究 |
| 校務の情報化 | 学校と教育センターをつなぐ研修情報システムの在り方について |
| 教育課程実施状況調査 | 確かな学力の定着を目指した学習指導の在り方 |

○一般留学生による研究

選考検査を経て、本年度は2名の一般留学生が学校現場より配置され、本センター研修主事の指導の下、以下の研究に取り組んでいます。

| 研究領域 | 研究テーマ |
|------|---------------------------------------|
| 理数教育 | 数学的な思考力・表現力を高める指導の在り方に関する研究 |
| 言語活動 | 言語活動の充実を目指した小学校国語科「書くこと」の指導の在り方に関する研究 |

○研究発表大会

研修主事及び一般留学生による研究成果については、平成27年2月24日（火）に開催する「山梨県総合教育センター研究発表大会」において発表します。なお、当日は、大阪大学大学院教授小野田正利先生の特別講演も予定しています。



【教育資料の収集】

教育図書、教育雑誌、県内外の教育関係機関や県内諸学校の研究紀要等を収集・整理・保管し、センターでの研究や研修に活用しています。これらの文献については、県内の教職員も利用することが可能で、禁帯出以外の図書については、貸し出しも行っています。また、学習指導案も収集しており、本センターホームページの「教育情報コンテンツデータベース」において閲覧することができます。

【校内研究の支援】

校内研究の進め方研修会の企画・運営、校内研究主題等調査の実施、教育課題調査の実施、各学校からの問い合わせへの対応等、校内研究の活性化を目指した調査や支援を行っています。また、本センターの研修主事が要請のあった学校に出向いて行う「出前研修」によって、校内研修や校内研究のお手伝いもしています。なお、「出前研修」は業務推進スタッフが窓口となっています。

小規模校の特色を生かして

甲府市立千代田小学校

本校は、甲府盆地北西部に広がる秩父山系の南西緩斜面に広がる、豊かな農耕地の一角に位置しています。そのため、市街地から離れて、大自然が身近に感じられると同時に、豊かな人と人との関わりが保たれ、子供たちの教育にとって最適な環境にあるといえます。このような教育環境と全校児童23名という小規模校の特色を生かしながら、様々な教育活動に取り組んでいます。

その中でも特筆すべきは、27年間続いている「1分間スピーチ」と「一輪車」の取組です。

「1分間スピーチ」は、表現力を養うための活動の一つです。児童一人一人がテーマを決め、全校児童や保護者、地域の方々の前で堂々とスピーチを行います。



1分間スピーチ前の全校合唱

発表後、聞いている児童から質問や意見、感想がたくさん出されますが、それらに臨機応変に回答することで、更に表現力が磨かれます。

「一輪車」はたくましい心と体をつくるために取り組んでいます。年に2回の一輪車検定に向けて、朝の活動や休み時間を使って積極的に一輪車の練習に励んでいます。また、運動会で行う全校での一輪車パレードはかなり見応えがあるので、毎年保護者や地域の方々から大絶賛されています。

今後も小規模校であることを利点とし、一人一人の個性が発揮できる特色ある教育活動を推進していきたいと考えています。



一輪車で完成させた富士山

Smile Everyday!! ～自ら科目履修を設計し、主体的な学びを実現する～

県立中央高等学校

◇ 新生中央高校

県立中央高校は昭和46年に創立され、定時制・通信制の併設校として歩み始めてから44年目を迎えています。定時制・通信制の修業年限は原則4年以上と規定されていますが、平成3年度からは単位制による課程に移行し、希望による科目選択により、多くの生徒が3年で卒業しています。平成25年度からは、定時制が3部制に改編され、進学を目標とした午前部が新設されました。合わせて、校舎の改築が行われ、平成27年の11月には全ての施設が新しくなります。「自立できる力を育む」という教育目標に向かいながら、国中地域の定時制・通信制の拠点校として再スタートを切りました。全国大会に出場する部活動も多く、「生徒生活体験発表」といった定時制・通信制ならではの学校行事もあります。

本校の大きな特色は、少人数指導と充実した教育相談体制にあります。スクールカウンセラーの他、大学院生による生徒相談ボランティア、職員チューター制など、様々な方面から生徒を支援する体制を整え、社会での自立を目指しています。

◇ 定時制

午前部には普通科、午後部と夜間部には普通科と情報経理科があります。3部制の特色を大いに生かし、生徒は就業や校外活動の時間を確保しながら学びたい時間帯に学ぶ、一人一人のカリキュラム設計が可能です。確かな学力を身につけ、社会を見据えた学びを行う、「生徒一人一人が、笑顔でいきいきと登校する学校づくり」を進めています。

◇ 通信制

普通科・衛生看護科があります。教育目標の実現に向けて学業と就業の両立を支援し、レポートの作成指導や授業を通して生徒理解を深め、健康で豊かな心、確かな学力、社会で生きる力を育み主体的に生きる態度の育成を目指しています。



平成25年に完成した新校舎



全国定時制・通信制バスケットボール大会

コレクション企画展「山梨の魅力～風景と人々の営み」

平成27年1月31日(土)～3月1日(日)

県立美術館

1 開催趣旨

富士山が世界文化遺産に登録され、リニア中央新幹線の開通が現実的になり、とかく山梨が注目されている昨今。

山梨の風景や人々の営みを描いた所蔵品と寄託品を中心に、その魅力を改めて見直すスペシャル展示を開催します。



河内雅溪《昇仙峡之図》
制作年不詳、個人蔵

2 見どころ

本展では、富士山はもとより、昇仙峡、南アルプスの山々、富士川といった名所風景と、豊かな自然に囲まれた土地で生き生きと過ごす人々の様子を描いた作品を選び抜き紹介します。

また、県立博物館をはじめ、ゆかりある作品を所蔵する美術館等からも作品を借用して、通常の常設展示では実現しない、広範囲で充実した展示を試みます。



鶴田機水《密画金溪図》制作年不詳、個人蔵

コレクション企画展「山梨の魅力～風景と人々の営み」

日時：平成27年1月31日(土)～3月1日(日)

休館日：月曜日

場所：山梨県立美術館 特別展示室

観覧料：常設展観覧料でご観覧いただけます。

一般510(420)円・大学生210(170)円 ※()内は20名以上の団体料金

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は無料

問い合わせ先：山梨県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP：<http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

「新収蔵品展 ペンをもつ、筆をとる

樋口一葉・飯田蛇笏・尾崎一雄・山本周五郎・武田泰淳ほか」を開催します

平成27年1月24日(土)～3月22日(日)

県立文学館

1 直筆の魅力

現在活躍中の作家の中には、原稿はもちろん、手紙や葉書を書く際も、パソコンに向かい、文章を作成している人が多いようです。実際は何度も書き直しているかもしれませんが、整然と並んだ活字からは、それをうかがい知ることはできません。

一方、一人一人が独自の書体を持つ手書きの文字は、見る者に様々なことを想像させます。「すごく癖のある字だから、性格も癖のある人だったのかも?」「手紙の途中から字が雑になっているけど、何か用事があったって急いでいたのかな?」など、書いた本人への興味がわいてきます。また、言葉を削ったり書き加えたりした推敲の跡を残す原稿からは、作品生成の過程を推察することが出来るため、文学研究において大変貴重な材料となります。

本展では、今年度に購入または寄贈や寄託を受けた資料の中から、書き手の個性を伝える直筆資料の魅力を紹介します。

2 みどころ

「たけくらべ」や「にごりえ」などの小説で知られる樋口一葉は、中島歌子の歌塾・秋の舎で和歌や書を学びました。一葉が自作の歌を墨筆で書いた短冊には、線の美しさを強調した書風「千蔭流」を習得した流麗な書体を見ることができます。

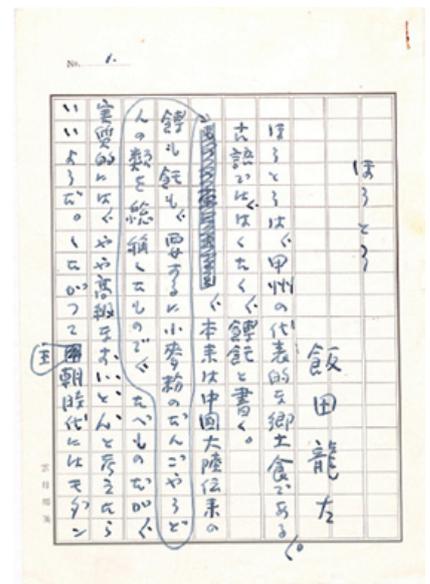
笛吹市出身の俳人・飯田蛇笏は、「芋の露連山影を正うす」などの格調高い俳句を残しましたが、みずから筆をとった「乳牛に無花果熟るゝ日影哉」軸装や原稿の文字にも、堂々とした風格のある雰囲気を感じられます。

そして、蛇笏の四男で同じく俳人の飯田龍太が書いた原稿や色紙の文字は、蛇笏とは対照的に柔和で穏やかな印象を与えます。

この他にも、大月市出身の小説家・山本周五郎が原稿用紙6枚にわたり胸の内を綴った手紙や、晩年、富士の麓の別荘で過ごした武田泰淳の原稿など、約80点の資料を展示します。

書き手の個性と素顔が覗く直筆資料の数々をその内容とともににお楽しみください。

樋口一葉「まだ消えぬみ山のまつ雪の上にかすみて出る
はるのよの月」短冊



飯田龍太「ほうとう」原稿

新収蔵品展 ペンをもつ、筆をとる 樋口一葉・飯田蛇笏・尾崎一雄・山本周五郎・武田泰淳ほか

日 時：平成27年1月24日(土)～3月22日(日)

場 所：山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35

休館日：月曜日

観覧料：無料

問い合わせ先：山梨県立文学館 TEL 055-235-8080

関連HP：<http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

学術文化財課

山梨市根津記念館（山梨市正徳寺）

東武鉄道の初代社長に就任するなど多くの会社経営にその手腕を発揮して「鉄道王」と称され、甲州財閥の一翼を担った近代日本を代表する事業家として知られる根津嘉一郎。その実家を保存しているのが山梨市根津記念館です。平成20年の開館以来、昭和初期に建てられた長屋門や旧主屋、当時の基礎や図面などから復元した青山荘、雄大な日本庭園などを公開し、当時の趣を現代に伝えています。また、嘉一郎の功績や人物像を紹介する展示棟には、山梨県下の全小学校に寄贈され、嘉一郎の代名詞にもなっている「根津ピアノ」の実物を展示しています。その他にも企画展や茶会、夜の庭園で行うライトアップコンサートなど、施設の特色を活かした各種イ

イベントを1年間の四季の中で開催しています。

住所：山梨市正徳寺296

電話番号：0553-21-8250

休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は翌平日）、
年末年始（12月28日～1月4日）

開館時間：9:30～16:30（受付終了16:00）

入館料：一般300円、高校生200円、
小中学生100円（障害者手帳提示で入館料
無料、その他団体等各種割引有）

URL：<http://nezu-kinenkan.com/>

Click!



旧主屋



青山荘（復元棟）



茶室

山梨の文化財

学術文化財課

県指定有形文化財（考古資料）

銚子塚古墳出土木製祭祀具

平成26年9月4日指定

銚子塚古墳出土木製祭祀具は、甲府市下曾根町にある国史跡の銚子塚古墳（4世紀後半に築かれた前方後円墳）から出土した木製品70点です。木製品は、周濠と呼ばれる古墳の周囲に掘られた堀の中から出土しました。通常の発掘調査では、木製品は土の中で腐ってしまうためあまり出土しませんが、銚子塚古墳では周濠部分の土に水分が多く含まれていたため、腐らずに残っていました。

このうち、立柱は直径約20cmの柱状の木製品で、古墳の後円部西側の周濠の中にまっすぐに固定された状態で出土しました。柱の上部は失われていましたが、本来は長い柱が直立していたと考えられます。笠形木製品は直径約50cm、厚さ約4cmの笠の形をした木製品で、後円部北東側の周濠から出土しました。また、後円部南側や北西側の周濠からは、円盤状木製品（直径約20cm、厚さ約2cm）、蕨手状木製品（長さ約24～28cm、幅約2～4cm）、棒状木製品（直径約2.5cm、長さ約270cm）が出土しており、円盤状木製品に開けられた穴と蕨手状木製品と棒状木製品の端の形状が一致することから3種類の木製品を組み合わせ使用されたことがわかりました。これらの木製品は古墳の墳丘や周辺に設置され、祭祀に使用されたと考えられます。

近年、関西地方の古墳を中心に木製品の出土事例が増えてきており、古墳では埴輪だけでなく、木製の用具を使った祭祀が行われていたことが明らかになっています。銚子塚古墳出土の木製品も古墳で行われた祭祀の内容を明らかにする資料として、また、当時の政治の中心地であった関西地方との関係性を解き明かす資料として貴重なものです。



立柱

円盤状・蕨手状・棒状木製品

組合せ復元図

新教育委員長に 石川 洋司 氏が就任しました

県教育委員会では、杉原廣委員長の任期満了に伴い、後任の第七十八代委員長に石川洋司氏を選任し、十月十三日に就任しました。



新委員長
石川 洋司

昨今、少子高齢化やグローバル化の進行、社会のつながりの希薄化、安心・安全に対する意識の高まりなど、教育を取り巻く状況は大きく変化しております。

また、教育委員会制度につきましても、本年6月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、制度改革が行われたところです。

このような状況の中、本年2月には「新やまなしの教育振興プラン」を策定し、未来を拓く「やまなし」人づくりの基本理念の下、新たなプランの実現のため、様々な施策に鋭意取り組んでいるところです。

就任にあたり、特に力を入れたい課題として2点挙げさせていただきます。

まず、確かな学力についてです。本年度の全国学力・学習状況調査の結果では、中学校の国語以外で全国平均を下回りました。一人一人の課題を明確にするとともに、授業改善にも取り組み、学力の向上を図っていきます。

次にいじめについてです。いじめには毅然とした態度で臨みます。学校、教育委員会は決していじめを見逃さず、児童生徒の皆さんや保護者の皆さんが相談できる環境整備に取り組んでいきます。

微力ですが、山梨県の学校教育のために力を尽くして参りますので、関係各位の御指導と御協力をお願いします。

新教育委員に 和田 一枝 氏が就任しました

県教育委員会では、杉原廣委員の任期満了に伴い、後任の教育委員として和田一枝氏が知事から任命されました。新委員の任期は平成二十六年十月十七日から平成三十年十月十六日までです。



新委員
和田 一枝

教育を取り巻く社会の状況が大きく変化する中で、これからの人材を育成する教育の果たす役割はますます大きくなっています。

教育委員として、その責任の重さと使命の重大さを痛感しております。

厚生労働省が七月に公表した国民生活基礎調査の結果では、子どもの貧困率は過去最悪となっています。長引く経済の低迷により貧困率も年々高くなり、子どもを取り巻く環境も悪化しています。

「新やまなしの教育振興プラン」は、「未来を拓く『やまなし』人づくり」を基本理念とし、そのための基本目標や施策の具体的な方向を示しています。

子どもたちには、どの子にも豊かな学びと成長が保障されなければなりません。そして、社会を生き抜く力を身につけ、人間性豊かな社会の形成者になってほしいと思います。

長年、学校現場で教育に携わってきた経験を生かし、微力ではありますが、山梨の教育の向上、発展のために尽くして参ります。